

けもの No. 03

ニホンザル

被害対策難易度



体長：50～70cm 程度
 体重：10～20kg 程度
 嗅覚：人間と同程度
 聴覚：人間と同程度
 視覚：人間と同程度

※主に視覚に頼って生活する

喜多方市鳥獣被害対策実施隊が
 お送りする野生鳥獣に関する情報紙です。
 過去の掲載記事はホームページをご覧ください。



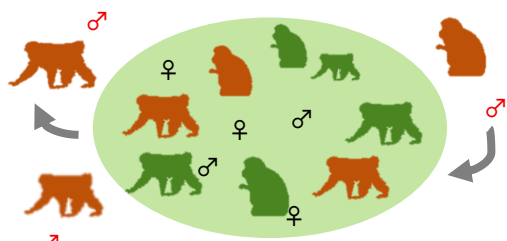
けもの新聞

The Wildlife Times



ニホンザルの生態

- ・運動能力に優れており、2メートル程のジャンプ力がある。
- ・手足をととても器用に使う
- ・とても頭が良く、記憶力も高い
 （警戒すべき人、警戒しなくてもいい人を見分けてすぐに覚える）
- ・植物質中心の雑食性
- ・10数頭～100頭程度の群れで行動
- ・オスは4～5歳で群れを出る
- ・メスは生まれた群れで一生過ごす



【メスを中心とした群れ】

旧 市内・塩川町にお住いの方は、野生のサルを見かけることはほとんどないと思います。しかし、それ以外の地域（熱塩加納・山都・高郷町）では、野生のサルが頻繁に出没して農作物などに被害を与えています。サルは、人里に慣れず、何十頭もの群れを引き連れて、畑の農作物を根こそぎ食い荒らしていきます。さらに慣れが進むと、人間が持つ買い物袋を奪う、食料を求め家屋内に侵入するなど、行動はより大胆に、悪質になっていきます。

サルは、クマやイノシシに比べ、非常に知能が高く、また群れを形成する社会的な動物であるため対策がとて複雑です。捕獲により数を減らそうとしても、方法を間違えると群れが分裂し、かえって被害を拡大させてしまう恐れがあります。サル対策の基本は「群れごとの管理」であり、「いかにその群れを大人しくさせるか」、「勢い付けさせないようにさせるか」が重要です。「群れごとに行動を把握し、人間側が群れをコントロールしていく」、という考え方が基本です。

人慣れの進むニホンザル

サル対策は、根比べ、知恵比べ

現在、市内で把握しているサルの群れは、日中群、朝倉Ⅰ群、朝倉Ⅱ群、一ノ戸群、一ノ木群、宮古群、大久保の群の7つです。中でも特に人慣れが進み農作物などへの加害レベルの高い群れは、熱塩加納町を縄張りとする日中群、山都・高郷町を縄張りとする宮古群、朝倉Ⅰ群の三つの群れです。市では毎年ニホンザルのモニタリング調査を行っており、それぞれの群れの行動域や頭数などを調査しています。調査の結果、頭数が多い群れや加害レベルが高い群れに対して、積極的に捕獲を行います。「悪さをする群れは全頭駆除」という意見もありますが、仮に全頭捕獲できたとしても「新たに入り込む群れの縄張りになるだけ」という専門家の指摘があります。

さて、そのモニタリング調査ですが、それを行うためには、群れごとに「発信器を装着した個体」を確保する必要があります。ニホンザルの生態で触れたところ、これには技術的な難しさがあります。なぜなら発信器を取り付けるべき対象は「群れから離脱しないメス」に限られるからです。メスはオスよりも警戒心が強く、箱わなに入りづらいう上に、成長が未熟な個体では雌雄の判別が困難です。現在、その発信器の付いている個体が自然死などにより減少傾向にあり、実施隊による積極的な捕獲活動を実施しているところです。

話は変わり、ニホンザルは、本来それほど繁殖力が高くなく、自然界では「2年に1度」の出産が一般的です。しかし、農作物などを食べ、栄養状態の良い個体が増えると、毎年のように出産し頭数が増えてしまいます。頭数を「減らす努力」と「増やさない努力」、両輪の取り組みが必要です。

徹底して、継続的に協力して

サルはとても学習能力の高い動物です。その特徴を逆手に取り、「ここは怖い場所」と学習させることが出没の抑制につながります。脅かされる、追い掛けられるなど、怖い目に遭うことが多い集落は次第に避けるようになります。

市では、サルの追い払いのため、動物駆逐用煙火を無償配布しています。ここで大切なのは、サルは「花火の爆音が怖い」のではなく、「追ってくる人間が怖い」ので逃げていくという点です。そのため、可能な限り集落を上げて多くの人数で追い払うことが非常に効果的です。また、「怖い」と思わせるための道具は必ずしも花火である必要はなく、電動エアガンやパチンコ（スリングショット）、爆竹、場合によっては、フライパンをおたまで叩きながら追い掛けても十分効果があります。

しかし、注意しなければならないのが、サルはとても賢く、人間が追い払えたと思っていても、農地のすぐ近くの木の上でこちらの様子を伺っています。そこで手を緩めると、「人間は花火を一発上げたら帰っていく」と学習してしまいます。急ぐ必要はないので、サルが逃げていった山や森まで追い掛け、もう一度花火を打ちましょう。サルの唯一の天敵は人間です。面倒でもしつこく追いかけ、徹底的に怖がらせてやりましょう。

